



# グリーン経営認証 新規審査申請用 (初めての審査)

記入例

## チェックリスト記入用紙

(旅客船事業・内航海運業用)

申請書、チェックリスト、付表は、ステープラー(ホチキス)でとめないで下さい。

### 記入の注意 (必ずお読みください)

- ❖ 『旅客船事業・内航海運業におけるグリーン経営推進マニュアル』にあるチェックリストに基づいて、貴社(事業所)のグリーン経営に関する取組み内容をチェックしてください。
- ❖ 取り組んでいる項目には……Yes欄の□に✓を記入。  
取り組んでいない項目には……No欄の□に✓を記入。  
(全ての項目についてYes、Noのいずれかを記入します)
- ❖ チェック項目のレベル数値欄が網掛けの項目(認証基準)は、すべてYesになっている必要があります。
- ❖ Yesの項目の内、末尾に「※付表～」と記載のある場合は、必ず、該当する付表へ記入し、提出します。
- ❖ **複数事業所を一括して申請する場合**
  - ① チェックリスト (P.1~3)……全事業所をとりまとめて1部作成します。  
(各項目共に、全事業所が取り組んでいる場合のみ、Yes欄に✓を記入できます)
  - ② 付表1~6 (P.4~9)……

*	全事業所をとりまとめて1部作成	}	どちらでも可。
*	<b>各事業所 別々に作成</b>		

この場合は

(各付表の右上余白部分に、事業所名を明記します……略称で可)
- ◎ 申請書、チェックリスト、付表は、ステープラー(ホチキス)でとめないでください。

# チェックリスト記入表（旅客船・内航海運）

記入例

チェック項目の内容が貴社の取組にあてはまる場合はYes欄に✓を、あてはまらない場合はNo欄に○を記入してください。

## 1. 環境保全のための仕組み・体制の整備

全てのチェック項目にYesかNoかチェックを記入してください。  
(認証基準項目<網掛けの項目>以外の項目にもチェックが記入されていないと申請を受けつけられません)

### レベル 1-1 【環境方針】

- Yes No
- (1) 会社、事業所等の環境保全への取組を示す環境方針を策定しており、環境方針には法規制の遵守など基本的な取組が示されている [レベル 1]
  - (2) 環境方針には法規制遵守に加えて、**認証基準項目(網掛けの項目)が全てYesになっていないと申請を受けつけられません。**
  - (3) 環境方針は、環境保全への取組状況

### レベル 1-2 【環境行動計画の作成・見直し】

- Yes No
- (1) 現状の環境保全活動への取組状況に関する評価結果や、検討した取組の改善策を踏まえ、今後の目標や目標達成へむけた具体的な取組内容などを盛り込んだ行動計画を作成（見直し）している [レベル 1]

### レベル 1-3 【推進体制】

- Yes No
- (1) 環境保全に関する管理責任者及び必要に応じて環境保全を推進するための組織を定めている [レベル 1]
  - (2) 管理責任者や組織を従業員に周知し、役割、責任、権限を明確にしている [レベル 2]
  - (3) 取組の結果を見ながら、組織や役割、責任、権限の見直しを行っている [レベル 3]

### レベル 1-4 【従業員に対する環境教育】

- Yes No
- (1) 環境に関わる法規制や行政指導の内容等を従業員に伝達している [レベル 1]
  - (2) 環境意識の向上を図るため、環境方針の徹底や環境に関する一般的な情報の伝達等を定期的に行っている [レベル 2]

## 2. エネルギー効率の向上（燃料消費量の削減）

### レベル 2-1 【燃料消費原単位等に関する定量的な目標の設定等】

- Yes No
- (1) 燃料の使用状況等について把握している [レベル 1] ※付表 1
  - (2) 燃料消費原単位等に関して定量的な目標を設定している [レベル 2] ※付表 2
  - (2) 燃料消費原単位等に関する定量的な目標を達成するため、エネルギー効率の向上等に関する計画を策定している [レベル 2]
  - (3) エネルギー効率向上のための取組状況や取組結果に基づいて、取組状況が改善するよう、取組の見直しを行う仕組みを設けている [レベル 3]

### レベル 2-2 【エネルギー効率向上のための体制整備】

- Yes No
- (1) エネルギー効率の向上を推進するための責任者を定めている [レベル 1]
  - (1) 船舶の乗組員に対して、エネルギー効率の向上に関する基礎的な知識についての教育・指導を行っている [レベル 1] ※付表 3
  - (3) 船舶の乗組員に対して、燃料消費原単位等の管理結果をもとに、燃料消費原単位等が向上するよう指導を行っている [レベル 3]

## 3. 大気汚染物質の排出抑制のための取組み

### レベル 3-1 【使用する燃料性状の向上に関する基準の設定等】

- Yes No
- (1) 使用している燃料の性状（硫黄分の含有量等）について、燃料油販売事業者等よりデータを入手し把握している [レベル 1]
  - (2) 使用する燃料の性状に関して基準を設定している [レベル 2]

Yes No レベル **3-2 【NOxの排出抑制が期待できる機関の導入】**

- [1] NOxの排出が少ない機関の存在を把握している[レベル1]
- [2] NOxの排出が少ない機関を導入している[レベル2]
- [2] NOxの排出が少ない機関を導入するための計画を策定し、目標達成に向けて導入に取り組んでいる[レベル2]

**4. 船舶の点検・整備**

Yes No レベル **4-1 【点検・整備のための実施体制】**

- [1] 点検・整備について、船内及び陸上におけるそれぞれの所掌と権限を明確に示した上で、責任者を任命している[レベル1]
- [2] 点検・整備について乗組員を対象に教育を行い、情報の提供を行っている[レベル2]
- [2] 点検・整備に関する長期的な実施計画を作成し、これに基づき実施すると共に、その結果を把握し、記録している[レベル2]
- [3] 点検・整備の成果を運転結果から評価し、必要に応じ計画や体制の見直しを行う仕組みを設けている[レベル3]

Yes No レベル **4-2 【性能維持、環境保全の観点から法定検査に係る整備の他、独自の基準による定期的な点検整備の実施】**

- [2] 法定検査に係る整備の他、環境に配慮した独自の基準による点検・整備を実施している[レベル2]

**(ディーゼル・ガソリンエンジン)** \*すべての項目を満たすと[レベル2]

- 主機関、発電機、補機類の定期的な開放・掃除・整備
- 主機関、発電機、補機類の潤滑油の定期的な性状分析と適切な管理の実施
- クランクケース、カムケース、減速機内部点検とクランクデフレクションの計測（高速エンジンなど構造上・仕様上等で不可能・不要の場合は除く）
- 吸排気弁の定期的な開放・掃除・整備
- 燃焼状態の把握（指圧図の撮取またはその他の適切な方法による。ただし、ガソリンエンジンの場合は除く）
- 燃料噴射弁の取替・整備（ガソリンエンジンの場合は除く）
- フィルター、ストレーナー類の定期的な開放・掃除・整備

**(ガスタービン)** \*すべての項目を満たすと[レベル2]

- 主機関、発電機、補機類の定期的な開放・掃除・整備
- 主機関、発電機、補機類の潤滑油の定期的な性状分析と適切な管理の実施
- 減速機内部点検
- 燃焼状態の把握（点火装置の点検含む）
- 燃料ノズルの整備（燃料噴射装置）
- タービンブレードの水洗浄、ケミカル洗浄
- デミスターパネルの洗浄
- フィルター、ストレーナー類の定期的な開放・掃除・整備

該当しない場合はYes・No記入欄に抹消線を引いてください。

5. 廃棄物の発生抑制、適正処理およびリサイクルの推進

Yes No レベル 5-1 【乗組員に対する廃棄物に関する教育】

- [1] 廃棄物の発生抑制（発生量削減）、再使用（繰り返し利用）、リサイクル（再生利用＝再資源化）及び適正処理の推進について、船舶の乗組員に対して指導を行っている[レベル1]

Yes No レベル 5-2 【廃棄物の環境に配慮した処理】

- [1] 陸揚げした廃棄物の処理に際して、適正処理やリサイクルを適切に行っている[レベル1]  
(油性混合物関係)

- [2] 法令に定められた排出方法以上の処理を行っている[レベル2]※  
(船内の日常生活に伴う廃棄物)

- [2] 法令に定められた排出方法以上の処理を行っている[レベル2]※付表5

Yes No レベル 5-3 【廃棄物の発生抑制、リサイクル】

- [1] 廃棄物の発生状況について把握している[レベル1]※付表6

- [2] 廃棄物の発生抑制やリサイクルの少なくともいずれかに関して定量目標を設定している[レベル2]※付表6

- [2] 廃棄物の発生抑制やリサイクルの少なくともいずれかの目標達成の状況について把握している[レベル2]

- [3] 廃棄物の発生抑制やリサイクルの少なくともいずれかに関する取組状況が改善するよう、取組の見直しを行う仕組みを設けている

発生抑制、再使用、リサイクル、適正処理の4項目についての教育指導が必要です。

以下の項目を実際に実施しているかどうかは問いませんが、少なくとも、以下の項目が環境保全にとって大切なことであることを情報として従業員に伝えていることが必要です。

6. 管理部門（事務所）における環境保全の推進

Yes No レベル 6-1 【管理部門（事務所）における環境保全】

- [1] 事務所内での環境保全の取組みについて、従業員に周知している[レベル1]

- ・エコマーク製品等を優先的に購入する
- ・不必要な照明の消灯を徹底する
- ・空調機器を適正温度に設定する
- ・コピー用紙等の紙使用量削減に努める
- ・分別回収ボックスを設置し、分別回収に努める
- ・使い捨て製品の購入を控える

- [2] 事務所内でのエネルギー使用量、廃棄物排出量の削減について、目標を設定している[レベル2]

- [3] 事務所内でのエネルギー使用量、廃棄物排出量の削減についての取組み状況を目標に照らして評価し、取組み状況が改善するよう、取組の見直しを行う仕組みを設けている[レベル3]

# ■付表1

**記入例**

□ 燃料の使用状況等について把握している[レベル1]

→ 把握している場合には、次の表に記入して下さい。

原単位の欄には計算式が埋め込んであります。  
原単位の自動計算を利用する時には、燃料油種ごとに船の輸送量(航行量)を記入します。  
自動計算を利用しない場合は、船ごとに一回だけ輸送量等を記入します。

転記する値となります。

初回の認証登録申請時には過去一ヶ月間以上の実績把握があれば申請は可能です。

実績を記入して下さい(前期実績)。(これは付表2の原単位などの今期目標を設定する基となります)

管理の単位を記入して下さい。

把握期間が一ヶ月間の場合は、期間の欄には例えば「19年10月～19年10月」のように記入します。

把握対象期間( 年 月 ~ 年 月 )

(事業所名及び)船種	両事業一括申請事業所には○を記入	船名	機関種類	燃料種類	輸送した旅客貨物等(重量)※1	輸送距離※1	燃料消費量	燃料消費原単位	燃料消費原単位	二酸化炭素排出係数※2	二酸化炭素排出量	二酸化炭素排出原単位
					A	B	C	D=C/A	E=C/B	F	G=C×F	H=G/A (又は G/B)
					単位(ton)	単位(km)	kl	重量当たり	距離当たり		ton	重量当たり
東京本社	○											
貨物船		つくば丸	ディーゼル	A重油	10,000	2,650.0	165.10	0.0165	0.0623	2.71	447.42	0.0447
			ディーゼル	C重油	10,000	2,650.0	824.00	0.0824	0.3109	3.00	2,472.00	0.2472
観光船		すみだ丸	ディーゼル	A重油	25,000	3,543.0	679.50	0.0272	0.1918	2.71	1,841.45	0.0737
関西本社												
タンカー		鹿島丸	ディーゼル	A重油	50,000	2,569.0	103.80	0.0021	0.0404	2.71	281.30	0.0056
				C重油	50,000	2,569.0	508.00	0.0102	0.1977	3.00	1,524.00	0.0305
会社(事業所)の船舶の合計					85,000	8,762.0	2,280.40	0.0268	0.2603	—	6,566.16	0.0772

※ 一つの事業所で旅客と内航の両事業の登録を希望する場合は該当する事業所に○を記入します。

原単位の自動計算を利用する時は、上記数値の単純合計ではなく、船ごとの数量の合計を手計算で記入します。

排出係数

5.61 kg/kWh	—	—
2.58 kg/L	灯油	2.49 kg/L
2.32 kg/L	A重油	2.71 kg/L
2.23 kg/Nm3	B・C重油	3.00 kg/L
LPG(液体)	3.00 kg/kg 又は 1.67 kg/L (LPG:1kg=1.795L)	
LPG(気体)	7.81 kg/m3 (LPG:1kg=0.384m3)	

燃料油種に関わりなく消費した燃料の総量で、会社(事業所)全体の燃料消費原単位を算出してください。

上記二酸化炭素排出量の合計

二酸化炭素排出量の合計÷輸送量(又は航行量)の合計

トンなどにより船舶によって異なる場合には、一定の換算率で人をトンに統一するか、あるいは単位ごとに別の付表を使用するかしてください。

換算率(日本LPガス協会)に基づき換算。

## ■付表2

□ 燃料消費原単位等に関して定量的な目標を設定している[レベル2]

記入例

船ごとの目標値。  
付表1で把握した実績に基づいて設定した燃料消費原単位等に関する今後(今期)の目標値を記入します。船ごとに目標値を設定することが運航条件のばらつきなどで難しい場合は、会社(事業所)全体の目標値の設定だけでもかまいません。

の表に記入して下さい。

改善率は無理をせず可能な範囲で設定します。改善率は船ごとに決めるか、全船共通とするか自由です。

付表1で把握した過去(前期)の実績に基づいて今後(今期)の原単位に関する目標を設定し、その実現に取り組む期間(任意)を記入します。(会社の経営年度ごとに目標を設定するのがよいでしょう)

目標設定の期間には、申請月(申請書提出の現在)が含まれていなければなりません。申請する時点では、既に目標を設定しており、目標達成に取り組んでいる必要があります。

の目標値を記入して下さい。

目標設定期間( 年 月 ~ 年 月 )

(事業所名 及び) 船種	船名	燃料 種類	燃料消費原単位 (重量当たり)			燃料消費原単位 (距離当たり)			燃料消費量			その他( CO2排出原単位 )					
			今期目標	前期実績 (付表1)	改善率 %	今期目標	前期実績 (付表1)	改善率 %	今期目標	前期実績 (付表1)	改善率 %	今期目標	前期実績	改善率 %			
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C			
東京本社																	
貨物船	つくば丸	A重油	0.0163	0.0165	1.0	0.0617	0.0623	1.0	163.45	165.10	1.0	0.0443	0.0447	1.0			
		C重油	0.0816	0.0824	1.0	0.3078	0.3109	1.0	815.76	824.00	1.0	0.2447	0.2472	1.0			
観光船	すみだ丸	A重油	0.0269	0.0272	1.0	0.1899	0.1918	1.0	672.71	679.50	1.0	0.0729	0.0737	1.0			
関西本社																	
タンカー	鹿島丸	A重油	0.0021	0.0021	1.0	0.0400	0.0404	1.0	102.76	103.80	1.0	0.0056	0.0056	1.0			
		C重油	0.0101	0.0102	1.0	0.1958	0.1977	1.0	502.92	508.00	1.0	0.0302	0.0305	1.0			
会社(事業所)全体			0.0266	0.0268	1.0	0.2577	0.2603	1.0	2,257.60	2,280.40	1.0	0.0765	0.0772	1.0			

(注) 改善率 (会社(事業所)全体の目標値(例えば、会社全体の前期実績値の1.0%削減値)

付表1で把握した過去(前期)の原単位に関する実績を転記します。

■付表3

記入例

□ 船舶の乗務員に対して、エネルギー効率の向上に関する基礎的な知識についての教育・指導を行っている[レベル1]

→ 教育・指導を行っている場合は、その取組内容に○をつけて下さい。

取組	記入欄
状況に応じた減速航行の励行・最適ルートを選定	○
主機・補機及び船体の良好な維持	○
船底クリーニングによる省エネ効果	
大型船による大量輸送の単位当たり燃料消費量削減	
省エネ船、省エネ装置導入によるエネルギー効率の向上	
船内における不要電力の削減	○
燃料漏れ等の防止	
その他( )	
その他( )	

上記項目以外にもエネルギー効率向上に役立つ基礎的な事柄を教育・指導していれば記入します。

上記の項目のうち1項目でも基礎的な知識についての教育・指導を行っている場合はレベル1となります

## ■付表4

## 記入例

(油性混合物関係)

□ 法令に定められた排出方法以上の処理を行っている[レベル2]

→ 行っている場合は、その取組内容に○をつけて下さい。

取 組	記 入 欄
法令に定められたビルジ等排出防止設備(油分分離装置及びビルジ用濃度監視装置)以外の設備を使用している	
陸揚げ処理を行っている	○
その他( )	

上記以外に環境保全を考  
えて、より環境に優しい処  
理方法を採用している場合  
に記入します。



■付表5

記入例

(船内の日常生活に伴う廃棄物)

□ 法令に定められた排出方法以上の処理を行っている[レベル2]

→ 行っている場合は、その取組内容に○をつけて下さい。

取 組	記 入 欄
法令に定められた焼却設備等以外の設備を使用している	
陸揚げ処理を行っている	○
その他( )	

上記以外に環境保全を考  
えて、より環境に優しい処  
理方法を採用している場合  
に記入します。

■付表6

記入例

□ 廃棄物等の発生状況について把握している[レベル1]

→ 年間の把握が望ましいですが、初回の認証登録申請時には過去1ヶ月間以上の実績把握があれば申請は可能です。

発生量やリサイクル等の目標は設定しなくても申請は可能です。

前期実績(量)を何%削減するかです。

前期実績(%)をどれだけ高める(%)かです。

現状維持は0%となる。

廃棄物の種類 (食物くず、廃油、廃プラスチック、等)	廃棄物の発生状況		廃棄物の発生抑制・リサイクルの今期目標					
	把握期間 ( 2007年 4月 ~ 2008年 3月 )		取組期間 ( 2008年 4月 ~ 2009年 3月 )					
	前期発生量		発生量			リサイクル率 (%)		
	(ton,kg,m3,L等)	単位	今期目標 A	前期実績 B	改善率(%) C(※)	今期目標 A	前期実績 B	改善率 C(※)
食物くず	445.0	kg	436.1	445.0	2.0	0.0	0.0	0.0
紙屑、ビニール等(一般混合廃棄物)	321.0	kg	317.8	321.0	1.0	0.0	0.0	0.0
金属(缶、その他)	115.0	kg	113.9	115.0	1.0	95.0	90.0	5.0
ガラス(ビン、窓ガラス等)	63.0	kg	63.0	63.0	0.0	80.0	0.0	80.0
プラスチック(容器、掲示板等)	65.0	kg	64.4	65.0	1.0	0.0	0.0	0.0
ペットボトル	26.0	kg	26.0	26.0	0.0	100.0	100.0	0.0
食用油	45.0	kg	42.8	45.0	5.0	50.0	0.0	50.0
ダンボール紙	14.0	kg	14.0	14.0	0.0	100.0	100.0	0.0
全体(事業所)	1,094.0		1,077.8	1,094.0	1.5	20.3	13.1	7.2

・船内生活から発生する廃棄物を対象とします。  
 ・貨物や機関場等から発生する廃棄物は含みません  
 ・旅客船の乗客関係の廃棄物は生活系廃棄物として含めます。

※C 改善率: 発生量削減 = (B-A)/Bx100  
 リサイクル率向上 = A-B

発生量の削減目標およびリサイクル率目標の設定には、  
 ①品目ごとに目標を設定する、②全体(事業所)で目標を設定する、  
 ③上記の両方で目標を設定する、等の方法があります。

発生量について品目ごとおよび全体(事業所)の両方の目標を設定する場合には、  
 先ず品目ごとの発生量目標値を設定します。次いで全体(事業所)の改善率を、  
 以下の計算により求めます。(上表では自動計算になっています)  
 全体(事業所)の改善率(削減率)  
 = (前期実績合計 - 今期目標合計) ÷ 前期実績合計 × 100%  
 = (1,094.0 - 1,077.8) ÷ 1,094.0 × 100% = 1.5%

品目ごとのリサイクル率  
 = 品目ごとのリサイクル処理量 ÷ 品目ごとの廃棄物発生量 × 100%  
 全体(事業所)のリサイクル率  
 = 品目ごとのリサイクル処理量の合計 ÷ 品目ごとの廃棄物発生量の合計 × 100%